

思いやり のこころ



木村 耕一 編著

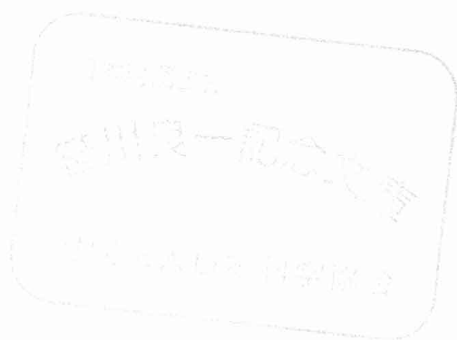


1万年堂出版



思いやりのころ

木村 耕一編著



1万年堂出版

〈編著者略歴〉

木村 耕一（きむら こういち）

昭和34年、富山県生まれ。

富山大学人文学部中退。

東京都在住。

エッセイスト。

著書『親のころ』

『ころの道』

『親のころ おむすびの味』

『ころの朝』

〈装幀〉遠藤 和美

思いやりのころ

平成19年(2007) 8月 8日 第1刷発行

平成19年(2007)10月 1日 第7刷発行

編 著 木村 耕一

発行所 1万年堂出版

〒101-0052 東京都千代田区神田小川町2-4-5F

電話 03-3518-2126

FAX 03-3518-2127

<http://www.10000nen.com/>

印刷所 凸版印刷株式会社

©Koichi Kimura 2007, Printed in Japan

ISBN978-4-925253-28-4 C0095

乱丁、落丁本は、ご面倒ですが、小社宛にお送りください。送料小社負担にて
お取り替えいたします。定価はカバーに表示してあります。

はじめに

相手を思いやる一言が、生涯、忘れられない感動を与えることがあります。

ある日、東京デイズニールランドに若い夫婦が訪れ、レストランで「お子様ランチ」を注文しました。

応対したアルバイトの青年は戸惑いました。この夫婦は、子供を連れていないのです。マニュアルではお断りすることになっています。

「おそれいますが、大人の方には……」

と言おうとしましたが、思いとどまって、

「失礼ですが、お子様ランチは、どなたが食べられるのですか？」

と尋ねてみました。

すると、奥さんが、うつむいたまま話し始めたのです。

「死んだ子供のために注文したくて……」

「……」

「私たち夫婦には、なかなか子供が授かりませんでした。ずっと願ひ続け、やっと娘が生まれましたが、体が弱く、一歳の誕生日を待たずに亡くなってしまいました。今日は、その子の命日なのです……」

「そうだったのですか……」

「子供が大きくなったら、親子三人でデイズニーランドへ行こうと、楽しみにしていました。とうとう実現しませんでした。が、一周忌の今日、せめて、私たちの心の中に生きている娘をデイズニーランドへ連れて行ってやりたいと思ったのです。本当に娘が生きていたら、ここで一緒にお子様ランチを食べたんだな、と思うと、つい注文したくなって……」

アルバイトの青年は、笑顔に戻っていました。

「お子様ランチのご注文を承りました。ご家族の皆様、どうぞ、こちらへ」と言つて、この夫婦に、二人用のテーブルから四人がけの家族テーブルへ移動してもらい、子供用のイスまで持ってきたのです。

「では、お子様はこちらに」

まるで子供が生きているかのように小さなイスへ導きました。

まもなく運ばれてきたのは、三人分のお子様ランチでした。

「ご家族で、ゆっくりお楽しみください」

アルバイトの青年は笑顔で去っていきました。

この心遣いに感動した夫婦は、

「お子様ランチを食べながら、涙が止まりませんでした。まるで、娘が生きているように、家族団欒を味わいました……」

と、帰宅してからお礼の手紙を書いたといっています。

東京デイズニールランドの生みの親・堀貞一郎氏が、各地の講演で、このエピソードを紹介したところ、大きな反響を呼び、新聞、雑誌などでも紹介されました。口コミでも感動の輪が広がっているようです。

アルバイトの青年の機転には、思いやりの心が光っています。本人にしてみれ

ばちょっとした配慮はいりよだったかもしれませんが。しかし、その、ほんの少しの気遣いきづかいを、家庭や職場で、皆みなが持つようになれば、どんなに人間味のある、温かい世の中になるでしょうか。

殺伐さつぱつとした事件や、不正を糾弾きうだんするニュースが、毎日のように報道されている今だからこそ、「思いやり」の心が求められています。

思いやりとは、相手の立場に立つ気遣いきづかいであり、和する心であり、利他の精神です。これは、日本人が昔から大切にしてきた心です。

第1章、第2章には、古今東西のエピソードを集めました。思いやり、利他の精神を実践じっせんしようとした人たちの人生は輝かがやいています。

第3章では、日本で最も読まれている古典『徒然草つれづれぐさ』を意識で味わいます。作者の吉田兼好よしだけんこうは、手紙や日常会話、他家を訪問する礼儀れいぎに至るまで、「こういう感覚はいけない」「これは、趣おもむきがあつていい」などと、短い文章でズバッと批評しています。古きよき日本の「心」に触ふれる思いがします。

第4章は、シリーズ恒例こうれいの、読者の皆さんみなのページです。

1万年堂出版から、「心にしみた親切」「元氣を与えてくれた言葉」などのテーマで体験談を募集ほしゅうしたところ、感動的なエピソードが多く寄せられました。「日本も、決して悪くなつてはいないぞ」と、ほほえましい気持ちになるものばかりです。

この本に掲載けいさいできた体験談は、その一部にすぎません。原稿げんこうをお寄せいただいた皆様に、心からお礼を申し上げます。

平成十九年八月

木村 耕 一

思いやり
の
こころ

目次

第1章

青空に白い
百合

1

日本と

トルコを結ぶ絆

エルトゥールル号の遭難

温かい心遣いは、

百年の時を超えて語り継がれた

2

富山の

くすり屋さん

「お金のことは心配せずに、

病気になったら薬をのんで……」

“先用後利”をキャッチフレーズに

3
約束のホームラン

ベーブ・ルースは球場の外でも、
子供たちを元気づけていた

46

4
将軍・秀忠の
居眠り

人の失敗を見て、笑ったり、
あざけったりしない優しさ

52

5
秀吉は、
なぜ好かれたのか

「ありがとう」の心を、
少しでも多く、言葉や態度に表す

57

6
秀吉の成功の秘訣

不平、不満を言わず、今日は、
今日の任務を一心不乱に務める

60

7

秀吉の偉いところ

叱られたら率直に謝る。

少しもふくれた顔をしない。

反発しない

64

8

中国の故事の知恵

「刎頸の交わり」が示す

和する心の大切さ

71

9

適塾・

緒方洪庵…①

有名になろうと思うな。

利益を得ようとするな。

医者は人を救うことだけを考えよ

78

10 適塾・
緒方洪庵……②

優等生の橋本左内は、
夜になると塾を抜け出していった

85

11 大根売りの人生を
変えたもの

たとえ過ちを犯しても、
心から反省すれば、必ず生まれ変わる

90

12 幸せと不幸の
分かれ道

地獄の箸と、極楽の箸は、
どちらが長いか

98

13 高島屋が
発展した鍵

「自利利他」は、昔から変わらぬ
当店の家風であります

102

第2章

百万本の

秋桜

14

芭蕉と

孝行娘の出会い

桜の美しさより、

親の恩に報いようとする心の美しさ

15

千利休の戒め

形だけ真似をしようとするのは、

実に情けない。自分の特徴を生かせ

16 葛飾北斎の心意気

たとえ自分が損をしても、
日本人の信用を傷つけることはできない

124

17 二宮金次郎の
農村立て直し…①

妻の理解と温かさが、金次郎に、
歴史に残る働きをさせた

128

18 二宮金次郎の
農村立て直し…②

荒地よりも、
人間の心を耕す難しさ

132

19 二宮金次郎の
農村立て直し…③

役人を一喝！
「人の命よりわが身の立場が大事なのか」

139

20

松下幸之助、
伝説の熱海会談

「相手が悪い」と思っているうちは、
どんなに議論しても解決しない

145

21

YKK・
吉田忠雄…①

「他人の利益をはからなければ、
自らも栄えない」
カーネギーの言葉を人生の指針に

150

22

YKK・
吉田忠雄…②

「常に相手を思いやる優しさ」を実践し、
世界のファスナー王へ

156